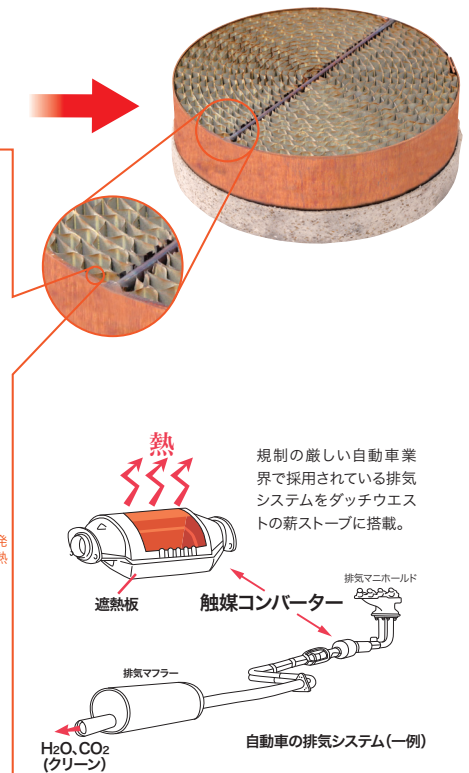
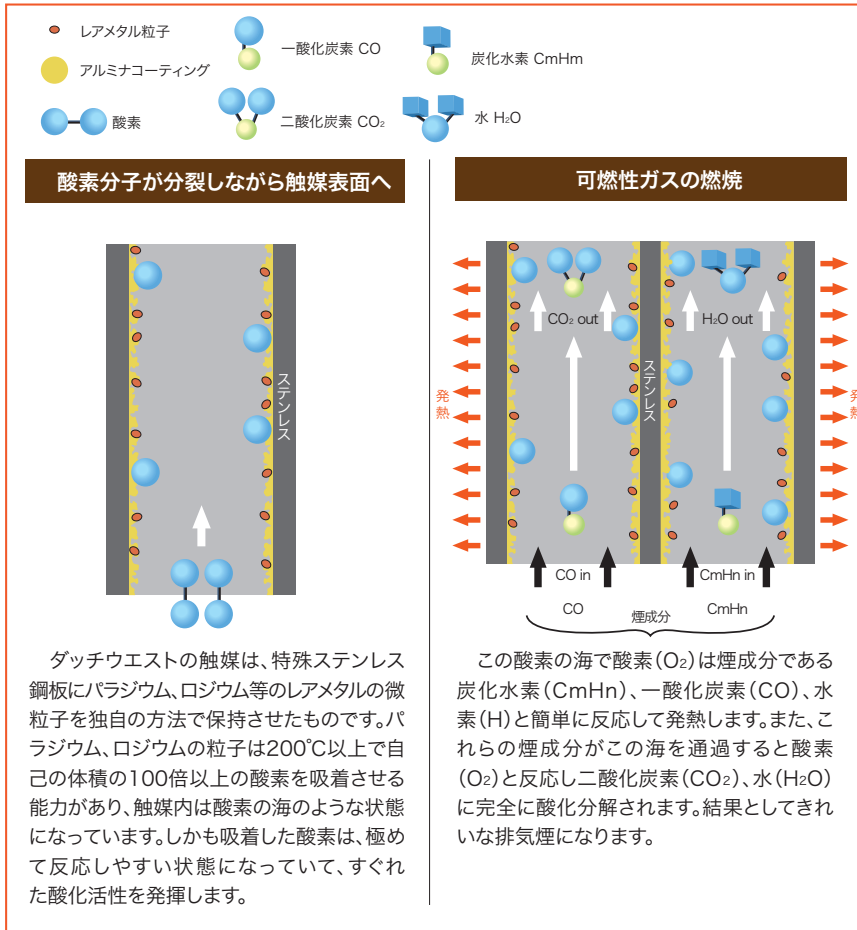


ダッチウエスト 世界で初めて薪ストーブに触媒を付けたパイオニア キャタリティックコンバスター(触媒)とは

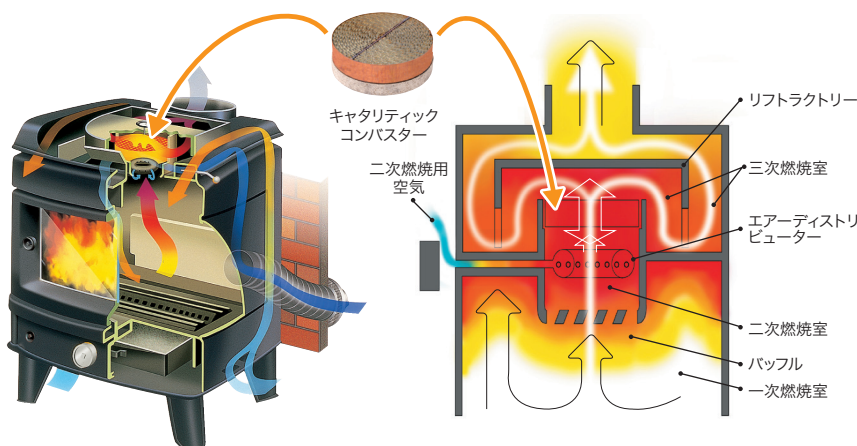
キャタリティックコンバスターのセル構造の働き



自動車の場合、触媒のおかげで排気ガスはきれいになりますが、触媒が熱くなりすぎると排気温度警告等が点灯します。ストーブの場合は、この触媒から発生した熱も暖房効果として有効に利用されています。

触媒を用いないと煙(CmHn)を二酸化炭素(CO₂)と水(H₂O)に完全分解させるためには700~800℃という高温が必要ですが、触媒を用いると(ステンレス製200℃・セラミック製250℃)という低温で完全分解させることができます。その他に臭いの元となる揮発性有機化合物(VOC)も酸化させ無臭化させます。結果としてより少ない燃料でより長く燃焼させることができます。

触媒が理想的な所にあるダッチウエストのストーブ



触媒が上部にある利点

1. 煙が自然な流れで無理なくストーブ内をめぐり排出される為、臭いが少ない
2. パッフルを設けることで、直火で触媒を壊す恐れが少ない
3. 触媒を熱い火床から離して設置できる
4. 触媒の熱をインナートップを通じて、4つのサイドパネルへ逃している
5. キャタリティックダイヤルからの二次燃焼用空気、触媒を冷やすこともできる
6. 常にプローブ温度計で触媒温度を監視できる
7. キャタリティックコンバスターの交換、メンテナンスが容易